

昭和三十一年三月十日 招集

第一回 定例市議会議録



昭和三年館山市會第一回定例會之記録

昭和三年三月十日午前十時館山市會第一回定例會にて市銀行に於て  
會室に招集する。

出席議員人数三十二名その氏名左の如し

一 石井 深	二 可世木 芳彦
三 福岡 保雄	四 金 木 久一
五 秋山 万次	六 小谷 世彦
七 磯辺 周雄	八 後藤 夕三
九 山口 房治	一〇 大野 清三郎
二 佐久 百太郎	一二 山 本 昇
一三 鈴木 孝	一四 飯田 義男
一五 遠山 ミネ子	一六 脇田 順一
一八 小沢 太助	一九 石井 平次
二〇 中村 良五	二二 松本 藤三

＝ 館山市議會

三三 安西政治

三三 高橋文治

二四 荻金田七郎

二五 田中忠光

二六 田中祿子

二七 伊勢仙之助

二八 山口 康

二九 里川彦子

三〇 小沢重子

三一 田村武夫

三二 望月暉作

三五 小沢 義

三六 嶋田 繁

一次席議員数一名その氏名右の如し

一七 鈴木 市子

二 本日の議事日程は右の如し

日程第一 会期延長を名人選任

、 第二 会期の決定

、 第三 議案上程

、 第四 市長 野田之幸 慶子 早稲 成方 計について

一 法第二〇三條により、議長から説明のため出席を求めらるる者次の通りである。

議長 田村利男

副議長 川上武男

次役代理 眞田泰吉

総務課長 定戸貴

税務課長 黒瀬芳雄

税務課長 山口実

商工課長 吉田耕一

福祉事業課長 長谷川広治

＝ 倉山市議會

建設課長

新井重助

保健課長

宮川為三郎

農林統計課長

高不哲三

秘書課長

山谷潤三郎

戸籍課長

伊藤幸七郎

衛生課長

羽山房雄

農務課長  
農務課長

富田兼次

教育課長

飯田忠

庶務課長

鶴田貫宣

委員長

和田隆治

監査委員

南武夫

一本記令の事務局長及び書記は次の通りである

事務局長

高梨清一

書記

記

太田博雄

岡

いん 田 幸 男

一本日の会議の事件はたうや

一 昭和三十一年度予算の編成方針について

南 令 午前十時三十分

議長(石井深居) 申上ります。本日のお席請う教員三名をいより昭和三十一年度予算

一面市議会定例会で用いさせていただきます。本定例会の議案説明のため田中君とい

い出席後 佐々木課長、黒瀬課長、吉田課長、東原収入役代理、土合川所長

新井課長、室川課長、高木課長、山本課長、伊藤課長、羽山課長

山口課長、高橋事務課長、和泉教育委員会、飯田教育長、穂沢課長

岡道査委員 以上の名席で申上ります。河部君に申上ります。

議長(石井深居) 日程第一、今般採果名目の決定を行います。お諮りいたします。

従来のに従って、議長の姓名により決定いたします。御異議ございませんか。

異議ございません

議長(石井深居) 御異議ございません。よろしく。二、今般採果の山本君が

二十九日御前より依りて居以上の通り決定致し奉り御覽を仰りませう

御覽を仰るの事

此より石井深志(御覽を仰るの事)の如き事、さうして上も決定を仰りて、日程第一

会期の決定を行います。本定例会の会期につきまゝとは、議案送付を各委員の意見

相違は二十日以内というにとてあります。お諮り致し奉ります。会期は議案送付を各

委員の意見通り二十日以内と決定するに御覽を仰りませうか

御覽を仰るの事

此より石井深志(御覽を仰るの事)の如き事、さうして決定致し奉ります

この意見をもつて会期規則第五条第二項の如きと致し奉ります。御承知願ひ

ます。

此より石井深志(尺今の事)の如き事、さうして会期日程は本定例会の大体の会期を定

ておき、議案送付を各委員の意見に基き、依りて決定するに御覽を仰りませうか

の会期日程を依り本定例会と送付致し奉ります。ことより御覽を仰りませうか

御覽を仰るの事



ニセガ(佐勢仙助君) 徳田通幸の御目がみにあはれにいはれ御目と延いて徳田通幸と  
する御目とよえてきたとて申します。

証長(石井深志) 只今ニセガの証長の御意見に承るまゝでは何刻御陽にいたるかと  
えてありきすさよう御承知します。 日程表に記さるゝ御意見は承ります。

田里証長より

証長(石井深志) 御意見は承るに承ります。 但し日程のニセガの証長の御意見の件は  
これは休憩時の中へ御相談申します。

証長(石井深志) 次は日程が三証長と上程いたします。

只今まで証長の手元に送附のありき。 証長が九号乃至十三号及び二十号

ニセガの証長に承るに承ります。 証長が九号乃至十三号及び二十号

証長の証長に承るに承ります。

田里証長の証長

証長(石井深志) 御意見は承るに承ります。 只今まで証長の証長に承るに承ります。

これより証長と御目といたします。

(市電配車配布)

議長(石井深居) 暫時休憩いたします。午後十時四十分

再開いたします。午後十時五十分

議長(石井深居) 議案の配布についてはお伺いしますが、お諮り致します。本日は議案の朗読は省略いたします。と思っております。御異議ございませんか。

田中池田のま

議長(石井深居) さうなればより日程を四つ。市長の昭和三十一年度予算編成方針に付する。説明を申します。

市長(中沢太助君) 市長の施政方針の説明の原則は休憩いたします。と思ひます。

議長(石井深居) 暫く休憩いたします。午後十時五十分

再開いたします。午後十一時五分

議長(石井深居) 市長の施政方針の説明を申します。

相手を

市長(田中利田君) 昭和三十一年度当市の当初予算案を提出するにあたり、その編成の

編成の概要と施政方針について、いさか所懐の一端を申し上げたいと存じます。

凡そ予算を編成する場合、その根本方針として、重厚大略に特別の事業のみに配分する方法と、一律にまづこの事業に配分する、やうな総花的な方法とがあつて、そのどちらかを選ぶべきかと云ふことは、誠に困難にして、重厚大略と均衡とありまゝて、一部の地域のみの利益が優先するやうな重厚大略や緊要の要望事項が後廻りになるやうな総花的になるやうにする事が予算を編成上目取も苦むするところであります。之を決定するには必ず大局から判断し、方針と確定することが肝要であります。

故に當るべきには、このどちらにも極端に走る事なくその中庸をたらし、予算の行政効果と経済効果とを考慮し、昭和三十年度の当初予算を編成することにいたしまゝと云ふてあります。しかる今更その編成の時期には、これと密接な関係にある国家の財政政策の改定又は実施にその関連が得られなかつたので、不取敢現行制度によることとし、従つて口庫財政に依存することなく、出来得る限り自主財源を把握すべく努力し、もつて昭和三十

九年度に生じた実質的赤字三千百五十万を解消する事に主眼を用いながら、  
 従つた市政の沈滞する事なく、しかも市民の福祉を増進するように努力を拂つ  
 たのであります。

以上の構想によりまして編成した三年度一般会計予算の総額は、収入を  
 共ニ億二千九十八万六千四百三十五円で、三年度の二億二千三百四十二万一千六百八  
 十円に比べ、百八十三万五千二百八十円の減となりました。

これを内容的に申し上げますと、市民の福祉に直接影響のある土木関係及び  
 教育費、社会及び労働施設費等が増加し、消費費、産業費、経済費と、  
 諸支出金をきつた順になつております。

先づ収入の主要財源となるものについては、市税の四七%、地方交付税の  
 一四%、使用料及び手数料の六%、口庫支出金の二五%、市債の八%があり  
 ます。

市税は収入の根幹をなすもので、一億三百九十九万となり、三年度の一億一千百  
 七十六万に比べますと、七百八十九万円の減となります。

之は口に於ける給ふ所得控除額の引に依り給ふ所得者の所得税より  
地価軽減の反面、固定資産を評価額適正化による増収入の自然増との  
相殺及び滞納繰越金の過入計とをかけた為でありませう。當分の如く三十九  
年度で実質赤字が三千一百万円を生じた市に於ては、法定期間内に赤  
字を解消する事を要務づかふて居り、そのための計にも十分の余裕  
をもたせう事が理想でありませうが、何分にも税外支入が乏しいため理想近  
りに実施しがたく、市民税に於て均等割見込額の八五%、所得割額  
見込額の八三%、固定資産税に於て土地に対する見込額の八五%に於て  
に於する見込額の八五%、償却減価見込額の八五%と計とする事に決  
まつた。この三十九年度滞納繰越金は、市民税・固定資産税繰越見込  
金額の二七%を計じいられた。昭和三十三年度に於ては、當年年度赤字  
を生じたので三十九年度に生じた赤字とを未得の限り解消するべく、増徴  
に努め全力を傾注して居りませう。赤字財政の打開に於ては、私の私任以  
来あらゆる努力を竭す之を解消するべく努力して来た為、漸くその曙光と

みむすに至りまうとが三十五年度には更に努力してこのうつ積りを細税経視の概念を撰述し、明に館より政を運進せんと考え、あらゆる非難に堪え、滞り一場の初末を徹底に道進する覚悟であります。なほ各位に於てもその方針に全面的御協力あらんことを切に御希望申しける次第であります。

地才交付税は三千二百万円、と前年度の二千八百十三万円に比べ、三百八十六万円増となりまう。之は一応□つて不十分決定基準に秘つてもうで、最終的には之より増加するものと考えております。特別交付税の且ど趣は合人にて居りまう。

使甲料及び手数料は、四千二百四十九万円、と前年度より二百九万円の増となりまうが、館山高等女子校の二級増設及び授業料に割増しにふることからなるものであります。

口庫よる金は、三千二百六十九万円、と前年度より二百七十三万円減となり、之は火害、土木、文教施設等事業の完了、軽減に伴う当然の結果

ておきます。

市債は千七百五十万円と前年度より三十万円減となります。これは各種事業の内外を要動によるものであります。

明年度は財政計画案によれば、政府は最近の地方債増大防止のため、一般事業債と五十七億円とし、三十年度に比べて二百八十三億円を削減するの措置に至っておりますので、当市の起債も相当の減ありを喰ひ、或は不許可のものが生ずることを憂慮をいたして、このやうに。

次にオを以つて御説明いたします。

市税町民税は全体の二%に當り、その額は四千九百三十五万円と、前年度の四千九百七十六万円に比べますと僅か若干減つて居ります。

市税所費は市政執行の中核をなすもので之に要する町民税が四千五百十九万円を占めて居ります。当市は合併以来欠員不補充の根本方針を堅持して参りましたが結果今日迄全体の四十一人の実質退職者があり、特殊取資の外は採用しなかつたために之と人口の類似する。

出雲三島、大石等十五市の市長事務部局一般取員定数平均  
ニ。四名に対し、一八七名と比較的少数の人員をもつて運営せしめる事から  
なつております。

更に行政機構改革の一端として昭和三十一年度において旧市域における出張  
所ニテ所の廃止をいかに考へております。

これは既に果敢なるかも知れぬ指摘をしておつたものであります。かゝる如く  
と調査をいさぐちしてこれをなす置するよりも、廃止の上、取員を本庁に吸収  
して能率の向上をはかるべきであるとの結論を得ようとして昭和三十一年  
度限り廃止しようとするものであります。

消消費は千五百三十九万円であるが本年は度、新に富時を遷所を開設す  
ることによる経費約百五十万円及び消消費米三十五ヶ所の新設費六百  
四十万円を合算して居ります。富時では全面積僅かに、七八平方町

で人口密度は三九八人、米下下は市川市に次の高い土地と云はれ、しかも  
四季を通じて十五米から二十米の強風が吹く、大旱上非常に危険度の



高い地域で佳民の消防令置所の設置が要と認められております。  
三十七年度に於て令置所を設け、常駐三名の要員を配置して、非常時  
に備へ、同地域の市民を大災害不安から解放したいと思つております。又、市  
内消防合同は昨年の改組を経て、より機械化し、消火能力は万全であ  
ります。また、排水池が千六百であり、三十七年度に於て排水池三千ヶ  
所、横穴式排水池五ヶ所、川せき止十ヶ所を施行し、消防活動に遺  
憾のないよう、市民の生命、財産の保全を図りたいと思つております。  
主として、産業経済の振興と密接な関連をもつてあります。  
本年度に於ける六十万円を計上した。前年度より四百四十万円増  
加し、増加率は千九百五十四年と比べて倍増しております。事業費の  
うち、主としてトランク一台購入に五十五万円、信標、新設費に六十万円  
、早物、市内道路改修費に十万円、船形、橋、港修築工事負担金  
六十万五千円等があります。

都市計画費、農業対策事業費、その他九十万円、前年度より六十

七万内増加を計ります。矢野事業は現下の社会状況に照み、  
 やう事業は効果の發揮を併せて、失業者の吸収を図るため、日々三  
 十人の失業者と就労させ、延九、二五人とむけて船形、船山港線、  
 大戸畑線、大石神倉線、藤原近野線、上真倉至同神倉線、見物  
 川沿線、川崎、千早線を工事するべく三百十六万円を計上致しました。  
 重要幹線幹線事業として三十七年度中に八幡神代倉下  
 から妙入川迄延長千二百米と完成するべく四百九十九万円を計上致しま  
 した。同路線は、昭和二十七年より工事を進め、船形より第一中  
 学敷の前迄一入。五米と完成し、船形正木間の交通に緩和に資すること  
 とされ、沿道地域開発に資することと見られて、昭三十七年度に計上致す。  
 公園敷に備蓄として三十三万円の買収を計し、ゆの宮工事として  
 城山公園の登山入道路路延長五百米、巾四米と百六万円ではなから  
 将来予想する南野海岸一〇五公園の指定と相俟うたえ民の協力な  
 援助のもとに当市観光センターの建設を計りたいと考へます。



起債等が多額に見込まれて居ります。夫等が完全に入手出来る時は計画の要更入若しくは中止をせざるを得なくなることも予め念頭に入れておまゝくはならぬといつてあります。若し財政を顧みないで遂に事業の完成のみ捕はるときは直ちに赤字を発生し、打角は転りかきとるその財政も遂に窮する結果を来すことなるので、このことを厳にいうめらければなりませぬ。

社会及び労働施設等は、総体の天%に占める三十四百二万円で百四十八万円の増加を計して居ります。主として一萬一千二百人を増すは、労働扶助費二千三百九十二万円は、何と云ふことも社会問題と云はなくてはなりません。被扶助者の二日も三十分自給出来ることと、窮乏も少くあるべきです。

この外に、労働野から校内に不自由を忍び、用處としては労働野保育園舎、建設費五十五万円と合くたして居ります。

労働費は経費より四百四十七万円、他の三万五千円、依に割合となつておりますが、これは土木費等のところで説明するより、労働費と土木費

は安易な増進であり、その方に基き用をかりひけること、間接的増進も多く  
に属する。移転的経費が財政再建法の適用にうけ、大巾に縮減した  
結果であります。この等については今日更に厳密な検討を加え追加  
しなくてはならぬ面がきどるものと思ふ所あります。

尚特殊なものとして、財源を多くする二百三十万円の中には、二十萬圓は  
支店の四半増収金に一回支拂ふ百五十万円が一応計上してあります。同支店の新  
店舗は本月末に完成し、四月より移転の運びになりますので、先づ四半増収  
に基き支拂はることはなされるものと存じます。

以上を要する所の要するものについては申じがましう、かゝる外に、法令等と、大  
三十九万円、保健衛生を多く五百二十万円、統計調査を多く三十四万円、道庁費を  
一白五十万円、公債費を二百三十万円、予備費を三百万円があります。

四、昭和十九年度予算編成にあつては、制約を加へ、いふことになつた移転的  
経費をいふこと。言及しなくては存じます。昭和十九年度では、亦は又は支  
繰延と生じ、右果す所は、当分の内、地方財政再建促進特別措置

法、同施行令の規定に従ひ、財政兩運計書と定めなければならぬ事とな  
 り、亦、多額に出ている者市のようなるが、他の地方公共団体、又は公営的  
 団体その他政令で定める法人その他の団体又は個人に對し、當分の金、法律、  
 又は政令の趣意に背かない負担金を、それによつて支拂するもの、即ち移転的  
 経費と支出しようとする場合には、一定の制限を加へようとする事となり、その  
 限度は移転的経費の総額から、その財源となるべき指定の收入に相當す  
 る金額を控除したもので、之則年度の又は移転決定に用いた其の年財政需  
 要額を除く、割合が百分の二を超えないこと、  
 重要と見ておいて、  
 ときは、その支出しようとする総額に、その自治庁長官の承認を得ること  
 とが、必要となつたこととてあります。政令では、三十一年度の移転的経費は、  
 は、必ずしも、枠内に圧縮する事を強く規定して居ります。

之則記の計算方法によると、本市の限度額は、編成済の千八百二十万円  
 に、約二百七十万となるが、このまゝでは承認を得ることが、むづかしいと云ふ  
 事と指摘されております。







等々校授業料入学金査料入学金等収条列申改に付 幼稚園  
保老科等収条列申改に付等々であります。

以上昭和三十一年度予算編成と施政方針の概要に付て申述べますが  
内容の詳細については御覧の如く既に御覧の如く各管理長から逐次説明  
させる事といたします。

何卒よろしく御覧に付審議の上ご協議と賜りますようお願い申上り  
ます。

八重(山沢大助君)はうく休憩とお願ひ致します。

議長(石井深君)はうく休憩いたします 十一時三十五分

雨降いたります 十一時三十九分

議長(石井深君) はいと以て本日は散会いたします ああとうとうです。

十一時三十分 十一時四十分

漢書卷之九

月

